

萩野小学校開校150年記念

「萩野ふれあいYEAR2022」記念式典 アトラクション

ハラプロジェクト 「姨捨」

令和4年11月12日公演

老人になると山へ捨てられる。
そんな姥捨伝説から作られた美しい話。
夏に真っ赤な椿が咲くとババはお山へ参る。
ババはその日が来ると、孫、息子、
山の生き物たちと「さよなら」する。
そして一人山へ消えてゆく。
人は生まれてやがて死ぬ。
なにか残して……。
めんめんと続く命の美しさが
三つの「さよなら」を通して見えてくる。
時が過ぎれば「人」も「世」も姿を変える。
何度演っても新しいハラプロ芝居の原点。

作・原智彦

主題歌・知久寿焼

「姥捨春夏秋冬・七ツ寺共同スタジオ・2015年・撮影者：安野亨」

「私と足助」

足助とのおつき合いは1985年、私が「スーパー一座」時代、怒田沢の寶榮座でロック歌舞伎「鳴神」と古典歌舞伎「石切梶原」を上演した事から始まる。

以後10年程公演を重ねる合間に、今に続く萩野小学校の子供歌舞伎「白浪五人男」のお手伝い。又、足助中学校で、地元に残っていた歌舞伎台本「足助次郎兼光」を元に、生徒でも出来るような作品を作ったりと、楽しいつながりがたくさんありました。……今は青木信行様始め、農村舞台寶榮座協議会の皆様共々に「七夕歌舞伎」を毎年夏に公演させていただいています。毎回たくさんのお客でいっぱい。……これもしたたる緑、風の音、川の音、鳥の声、大自然の中での芝居見物、楽しくない筈ありません。よく「舞台と客席がひとつになる」と言われますが、ここではさらにもう一つ。「舞台と客席とまわりの風景がひとつになって」だと思えます。……いつまでもこの豊かさを大切にして、私共ハラプロジェクトも足助の豊かさに力を借りて楽しい芝居を続ける覚悟、以後末永くのおつき合い出来る事祈ります。

ハラプロジェクト 原智彦

<ハラプロジェクト>

原智彦のロック歌舞伎「スーパー一座」(1979~2008年)時代の30年を経て45年に及ぶ伝統を基に百姓の身体作法(股割、スリ足など)を大切に音楽・美術・映像、絡み合うキレイで楽しい芝居。